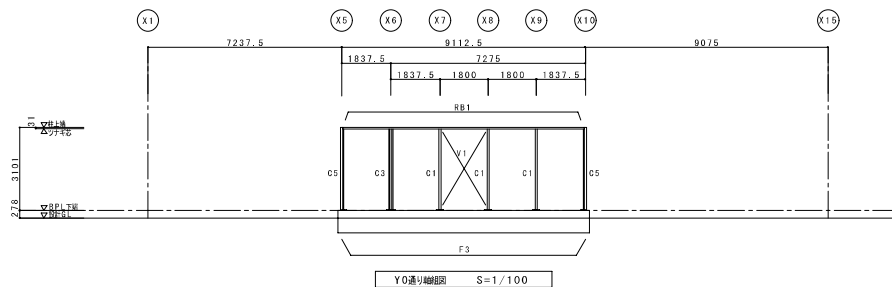
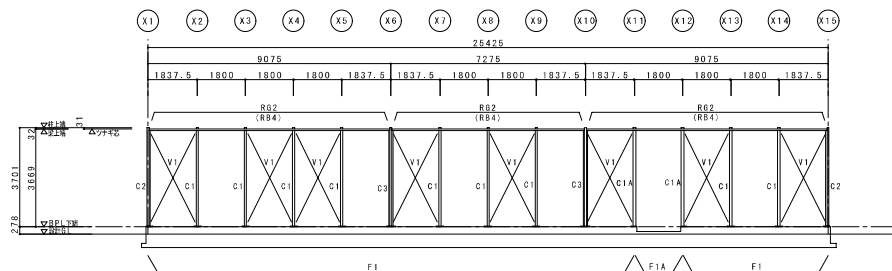


・本仕様の中で選択式の項目は、■を採用して □は採用しない。 ・■であっても上位の項目が□の場合は採用しない。		３．鉄筋コンクリート基礎工事		４．鉄骨躯体工事 （１）使用材料		４．鉄骨躯体工事 （２）製作・施工			
１．構造概要		（１）コンクリート		・鋼 材		・製作工場			
・建設場所	静岡県静岡市長区北安東4丁目27番1号	・使用材料	■コンクリートはJIS A5308によるレディーミクストコンクリートとする。 ■使用するセメントはJIS R5210によるポルトランドセメントとする。 ■普通ポルトランドセメント □早強ポルトランドセメント	記 号	材 料 名	JIS番号	■全国建築工業協会による性能評価を取得している者 □J ■R □M □H □S □未取得		
・工事種別	■新築 □増築 □改築		項 目	基礎（構造体）	土間	捨てコン	JIS G3101 JIS G3350	・製作管理技術者資格 □1級建築士 □2級建築士 ■1級鉄骨製作管理技術者 □2級鉄骨製作管理技術者	
・建物用途	事務所		種 類	普通	普通	普通	JIS G3444 JIS G3466	・製作全般 ■鉄骨の製作はプレハブメーカーの製作受領書による。 ■溶接の仕様、寸法などは、下記の溶接基準による。	
・階数規模	鉄骨造（ブレース構造） 地上平屋建 □空調屋外機 □ソーラーシステム □屋上緑化設備 □ □エレベーター（乗用13人乗り） □小荷物昇降機		設計基準強度（N/mm ² ）	21	18	18	JIS G3353 JIS G3138 JIS G3136	■製品検査内容 項 目 検査内容 ■寸法精度 寸法、ひずみなどの測定 ■隅肉溶接 寸すみ肉溶接状況の目視による確認 □部分溶込溶接（異形隅肉溶接） 開先形状、溶接状況の目視による確認 □完全溶込溶接 超音波探傷試験 ■ボルト接合 スプリングワッシャーのつぶれ確認 □高力ボルト接合 マーキングのずれ、ピンチール破断の確認	
・外的条件	なし 風速（V0） 32m/s 地表面粗度区分 □Ⅰ □Ⅱ ■Ⅲ □Ⅳ 積雪 積雪量：30cm 単位重量：20N/m ² ・cm 凍結深度 構造体（用途係数） □Ⅰ類（1.5） □Ⅱ類（1.25） ■Ⅲ類（1.0） 非構造部材 □A類 ■B類	・強度補正	■構造体強度補正値は以下による。（JASS5-2009） 気温θ（℃） 打込み日から28日までの予想平均気温 暑中期間 早強ポルトランドセメント 0≤θ<5 5≤θ 25<平均θ 普通ポルトランドセメント 0≤θ<8 8≤θ 補正値（N/mm ² ） +6 +3 +6		・ブレース	項 目	仕様・形式など	JIS番号	・製品検査者など
・耐震安全基準		・型 枠	型枠の材質：■合板 □金属パネル ■型枠の存置期間を定めるためのコンクリートの材齢は以下による。 平均気温（℃） 10℃以上20℃未満 20℃以上 早強ポルトランドセメント 3日 2日 普通ポルトランドセメント 6日 4日	材料（～M10）	■SNR400B ■SS400	JIS G3101	□A種（形割で固定） □B種（鉄筋で固定）		
・部材の種類	■新品 □再利用部材		■型枠の材質：■合板 □金属パネル ■型枠の存置期間を定めるためのコンクリートの材齢は以下による。 平均気温（℃） 10℃以上20℃未満 20℃以上 早強ポルトランドセメント 3日 2日 普通ポルトランドセメント 6日 4日	材料（M12～）	■SNR400B □SS400	JIS G3138	□C種（雨で覆い位置修正後モルタル充填） ■合板製型板に固定		
・令第129条の2の4の事項	給湯設備については風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。		■型枠の材質：■合板 □金属パネル ■型枠の存置期間を定めるためのコンクリートの材齢は以下による。 平均気温（℃） 10℃以上20℃未満 20℃以上 早強ポルトランドセメント 3日 2日 普通ポルトランドセメント 6日 4日	表面仕上げ	■めっき（ユニクロ）	JIS H8625	■柱脚均しモルタル		
・地盤調査資料	事前資料：■有り □無し 調査予定：□有り □無し 調査場所：■敷地内 □近隣 調査方式：□スウェーデン式静荷貫入試験 ■標準貫入試験 □平板載荷試験 資料確認：□添付の調査報告書参照 30 kN/m ² （長期） □表層 ■GL-0.60m □その他		・品質管理	■上記以前に脱枠する場合は、圧縮強度試験を行ない、強度が5N/mm ² 以上に達している事を確認すること。 ■コンクリートはJIS認証工場の製品とし、施工は平成25年版公共建築工事標準仕様書による。 ■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接基準
・地盤許容支持力		（２）鉄 筋	■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・デッキプレート	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の種類	
・支持層位置			■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接材料	
・調査水位			■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接有効長さ	
・基礎支持形式			■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・地業材料		（２）鉄 筋	■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・残土処分			■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・地業材料			■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・残土処分			■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・地業材料		（２）鉄 筋	■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・残土処分			■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・地業材料			■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・残土処分			■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・地業材料		（２）鉄 筋	■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・残土処分			■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・地業材料			■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・残土処分			■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・地業材料		（２）鉄 筋	■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・残土処分			■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・地業材料			■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・残土処分			■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・地業材料		（２）鉄 筋	■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・残土処分			■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・地業材料			■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・残土処分			■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・地業材料		（２）鉄 筋	■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・残土処分			■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・地業材料			■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・残土処分			■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・地業材料		（２）鉄 筋	■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・残土処分			■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・地業材料			■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・残土処分			■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・地業材料		（２）鉄 筋	■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット	■鋼材	■中ボルト □フルスレッド	JIS B1180	・溶接の有効長さ	
・残土処分			■A剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。 ■水セメント比は65%以下とする。 ■単位水量は185kg/m ³ 以下とする。 ■単位セメント量は270kg/m ³ 以上とする。 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m ³ 以下であることを確認すること。 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5-T-603による。 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者の指定する第三者機関とする。 □構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。	・ボルトセット					

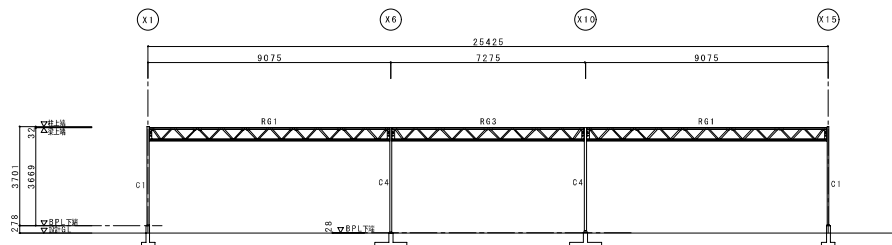
・構造図に記載されている事項は、本標準図に優先して適用する。 ・構造図及び本標準図に記載されていない事項は、工事監理者と協議を行なう。																																																																																						
1. 鉄筋加工					2. 組立					3. 各種補強					4. 梁貫通補強																																																																							
・端部折曲げ形状 <table><tr><td>折曲げ角度</td><td>180°</td><td>135°</td><td>90°</td></tr><tr><td>形状</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>鉄筋の余長</td><td>4 d 以上</td><td>6 d 以上 (幅止め筋は 4 d 以上)</td><td>8 d 以上 (幅止め筋は 4 d 以上)</td></tr></table> ・D 16 以下で R ≧ 3 d D 19 以上で R ≧ 4 d (中間部の折曲げも同様)					折曲げ角度	180°	135°	90°	形状				鉄筋の余長	4 d 以上	6 d 以上 (幅止め筋は 4 d 以上)	8 d 以上 (幅止め筋は 4 d 以上)	・継ぎ手・定着長さ <table><tr><td>コンクリートの設計基準強度</td><td>16 18 kN/mm²</td><td>21 24 kN/mm²</td></tr><tr><td>継ぎ手長さ及び重要な部分の定着長さ</td><td>45 d</td><td>40 d</td></tr><tr><td>一般部の定着長さ</td><td>40 d</td><td>35 d</td></tr><tr><td>溶接金網の継ぎ手</td><td>1 節半以上</td><td>1 節半以上</td></tr></table> ・継ぎ手位置は応力に小さい位置に設ける事 ・隣接する継ぎ手位置は下図の何れかとする。 ・継ぎ手位置 (布基礎の場合) ・梁主筋の範囲 (端部・中央部) ・かぶり厚さ <table><tr><th>単位：mm</th><th>最小かぶり厚さ</th><th>設計かぶり厚さ</th></tr><tr><td>布 基 礎</td><td>基礎梁部</td><td>40</td><td>50 以上</td></tr><tr><td></td><td>フーチング部</td><td>60</td><td>70 以上</td></tr><tr><td>土間コンクリート</td><td>上面</td><td>30</td><td>40 以上</td></tr><tr><td></td><td>下面</td><td>40</td><td>50 以上</td></tr></table> ・鉄筋のあき ・鉄筋のあきは以下の内、最大のもの以上とする。 ① 鉄筋の呼び径の 1.5 倍以上 ② 粗骨材最大寸法の 1.25 倍以上 ③ 25 mm 以上					コンクリートの設計基準強度	16 18 kN/mm ²	21 24 kN/mm ²	継ぎ手長さ及び重要な部分の定着長さ	45 d	40 d	一般部の定着長さ	40 d	35 d	溶接金網の継ぎ手	1 節半以上	1 節半以上	単位：mm	最小かぶり厚さ	設計かぶり厚さ	布 基 礎	基礎梁部	40	50 以上		フーチング部	60	70 以上	土間コンクリート	上面	30	40 以上		下面	40	50 以上	・増打ち補強 ・補強筋を入れるのは、増打ち幅 70 mm 以上の場合とする。 ・補強筋は梁主筋の 1 サイズ薄しかつ D 16 以上とする。 ・追加あばら補強筋は、あばら筋と同径、同ピッチとする。 ・梁幅が 400 以上の梁の梁成方向に増打ちする場合は補強筋を 3 本とする。 ・主筋に段差のある場合 ※定着長 35 d 確保が不可能の場合は、先端フック付きとし、 下端主筋まで定着させる。 ・主筋を通す場合(フカシ部) 増打ちコン上端 基礎上端 あばら補強筋(あばら筋と同径・同ピッチ) 先端フック無し A 断面 あばら筋 先端フック有り A 断面 ・床下換気口補強					・貫通位置 貫通の望ましい位置 貫通孔が連続して間隔がとれない場合は、 工事監理者と協議を行なうこと。 ・貫通孔の間隔 $(\phi 1 + \phi 2) \times 3/2$ 以上 ・貫通孔の補強 <table><tr><td colspan="2">80 ≦ φ ≦ 100</td></tr><tr><td>・単配筋の場合</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>折 筋 2-D13 縦 筋 ST D10@100</td></tr><tr><td>・複配筋の場合</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>折 筋 2-(2-D13) 縦 筋 ST2-D10@100</td></tr><tr><td colspan="2">100 < φ ≦ 150</td></tr><tr><td>・単配筋の場合</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>折 筋 2-D13 縦 筋 ST D10@100 横 筋 2-D13</td></tr><tr><td>・複配筋の場合</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>折 筋 2-(2-D13) 縦 筋 ST2-D10@100 横 筋 2-(2-D13)</td></tr><tr><td colspan="2">150 < φ ≦ 250</td></tr><tr><td>・単配筋の場合</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>斜 筋 4-D13 縦 筋 ST D10@100 横 筋 2-D13</td></tr><tr><td>・複配筋の場合</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>斜 筋 2-(4-D13) 縦 筋 ST2-D10@100 横 筋 2-(2-D13)</td></tr></table> ・ただし、φ ≦ 梁成/3 とする。 ・250 φ 以上の開口部を設ける場合は、特記による。 ・認定品を使用できるのは複配筋の場合のみとし、仕様はメーカーの仕様による。					80 ≦ φ ≦ 100		・単配筋の場合		折 筋 2-D13 縦 筋 ST D10@100	・複配筋の場合		折 筋 2-(2-D13) 縦 筋 ST2-D10@100	100 < φ ≦ 150		・単配筋の場合		折 筋 2-D13 縦 筋 ST D10@100 横 筋 2-D13	・複配筋の場合		折 筋 2-(2-D13) 縦 筋 ST2-D10@100 横 筋 2-(2-D13)	150 < φ ≦ 250		・単配筋の場合		斜 筋 4-D13 縦 筋 ST D10@100 横 筋 2-D13	・複配筋の場合		斜 筋 2-(4-D13) 縦 筋 ST2-D10@100 横 筋 2-(2-D13)
折曲げ角度	180°	135°	90°																																																																																			
形状																																																																																						
鉄筋の余長	4 d 以上	6 d 以上 (幅止め筋は 4 d 以上)	8 d 以上 (幅止め筋は 4 d 以上)																																																																																			
コンクリートの設計基準強度	16 18 kN/mm ²	21 24 kN/mm ²																																																																																				
継ぎ手長さ及び重要な部分の定着長さ	45 d	40 d																																																																																				
一般部の定着長さ	40 d	35 d																																																																																				
溶接金網の継ぎ手	1 節半以上	1 節半以上																																																																																				
単位：mm	最小かぶり厚さ	設計かぶり厚さ																																																																																				
布 基 礎	基礎梁部	40	50 以上																																																																																			
	フーチング部	60	70 以上																																																																																			
土間コンクリート	上面	30	40 以上																																																																																			
	下面	40	50 以上																																																																																			
80 ≦ φ ≦ 100																																																																																						
・単配筋の場合																																																																																						
折 筋 2-D13 縦 筋 ST D10@100																																																																																						
・複配筋の場合																																																																																						
折 筋 2-(2-D13) 縦 筋 ST2-D10@100																																																																																						
100 < φ ≦ 150																																																																																						
・単配筋の場合																																																																																						
折 筋 2-D13 縦 筋 ST D10@100 横 筋 2-D13																																																																																						
・複配筋の場合																																																																																						
折 筋 2-(2-D13) 縦 筋 ST2-D10@100 横 筋 2-(2-D13)																																																																																						
150 < φ ≦ 250																																																																																						
・単配筋の場合																																																																																						
斜 筋 4-D13 縦 筋 ST D10@100 横 筋 2-D13																																																																																						
・複配筋の場合																																																																																						
斜 筋 2-(4-D13) 縦 筋 ST2-D10@100 横 筋 2-(2-D13)																																																																																						
・あばら筋の形状 <table><tr><td>A. 単配筋の基本形</td><td>B. 複配筋の基本形</td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td>C. 片側床版付 (B がより良い)</td><td>D. 両側床版付 (B がより良い)</td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="2">フック位置はスラブ側</td></tr></table> A. 単配筋の上部フックの納め方 屋外側 基礎梁主筋 室内側 あばら筋のフック アンカーボルト あばら筋上部のフックは基礎梁主筋と 45° の角度をなすように加工して、 かぶり厚さを確保する。					A. 単配筋の基本形	B. 複配筋の基本形			C. 片側床版付 (B がより良い)	D. 両側床版付 (B がより良い)			フック位置はスラブ側																																																																									
A. 単配筋の基本形	B. 複配筋の基本形																																																																																					
C. 片側床版付 (B がより良い)	D. 両側床版付 (B がより良い)																																																																																					
フック位置はスラブ側																																																																																						



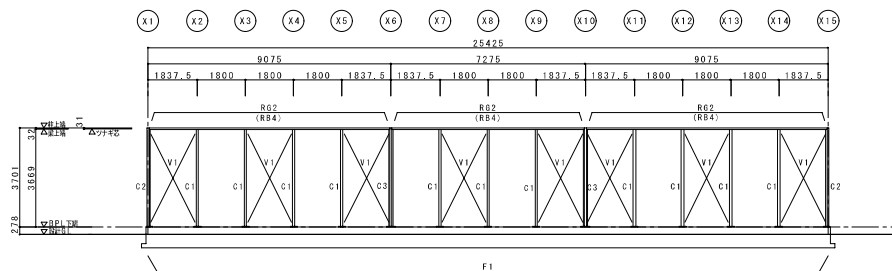
Y0通り軸組図 S=1/100



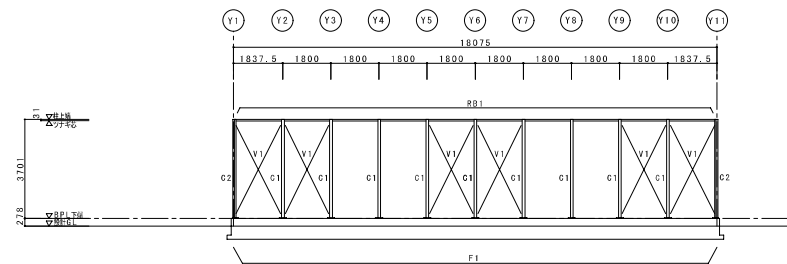
Y1通り軸組図 S=1/100



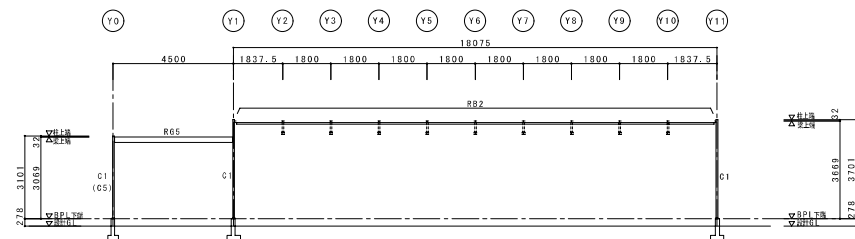
Y2, Y3, Y5, Y7, Y9通り軸組図 S=1/100



Y11通り軸組図 S=1/100

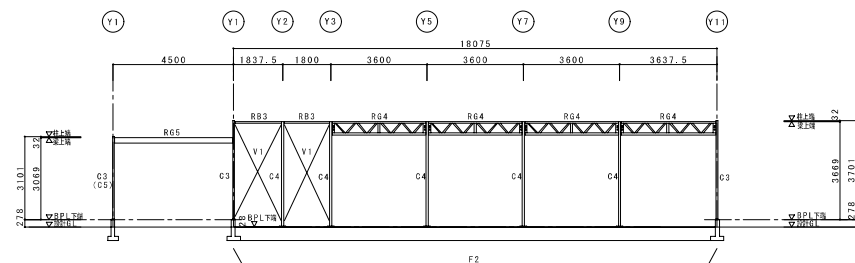


X1通り軸組図 S=1/100



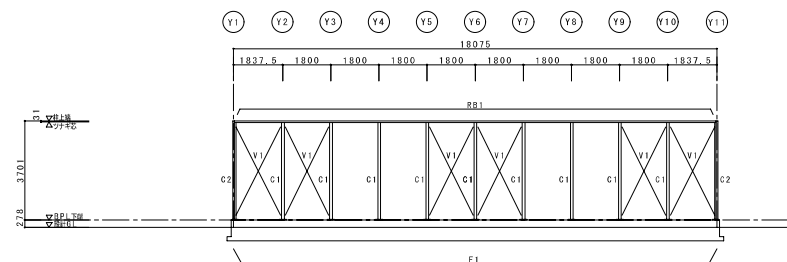
X7, X8, X9通り(X5通り)軸組図 S=1/100

()内はX5通りをします



X6通り(X10通り)軸組図 S=1/100

()内はX10通りをします

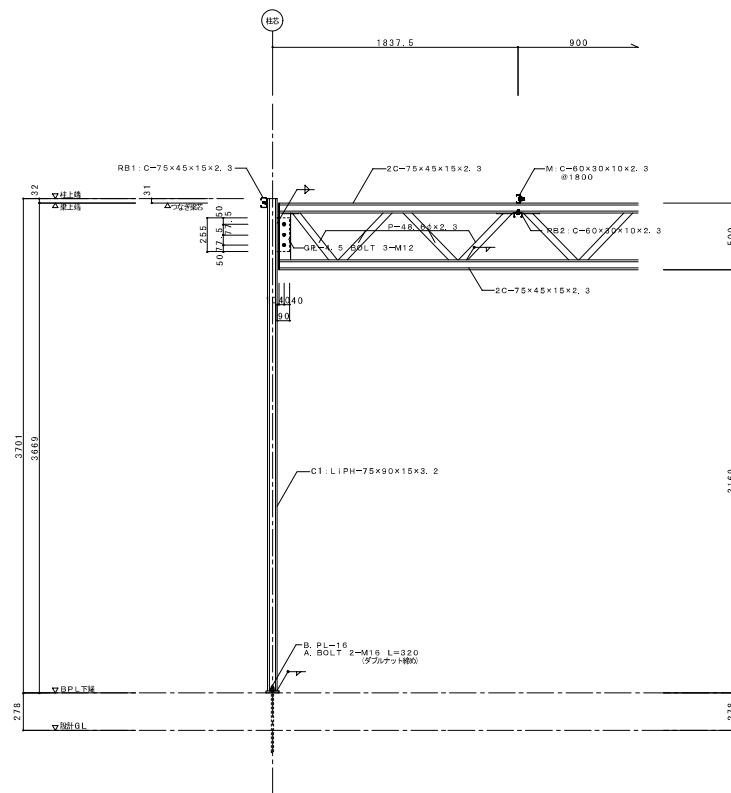


X15通り軸組図 S=1/100

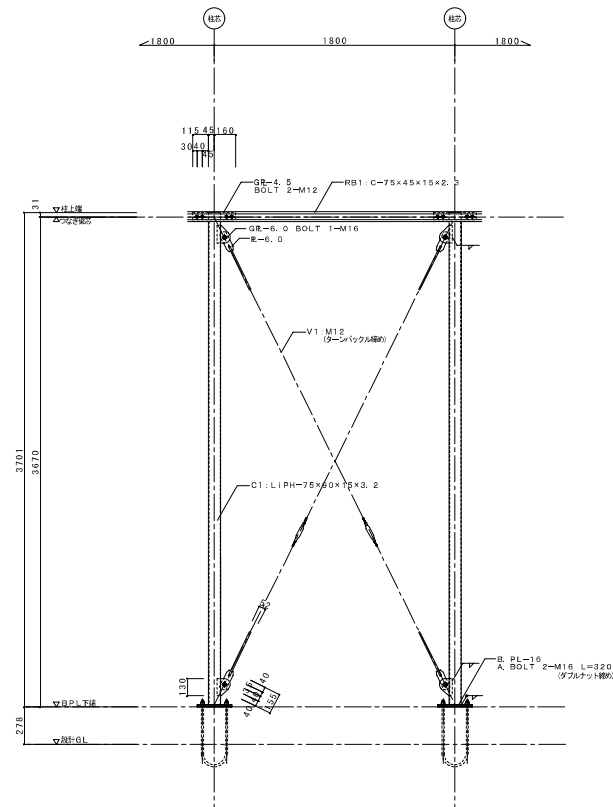
[illegible][illegible]

名 称	RB1、RB3 RB4 (1号は2号)		RB2		M									
断 面 仕 口														
部 材	C-75x45x15x2.3	SSC400	C-60x30x10x2.3	SSC400	C-75x45x15x2.3	SSC400								
仕 口	BOLT2-M12	強度区分: 4.8	BOLT2-M12	強度区分: 4.8	BOLT2-M12	強度区分: 4.8								

名 称	V1		H1		折板（ボルト式）		アンカーボルト詳細 S=1/20	
断 面 仕 口								
部 材	M12（ターンバックル用）	SNR400B	M10（ターンバックル用）	SS400	t=0.5 H=88			
仕 口	G. PL-6.0	SS400	G. PL-4.5	SS400				
	BOLT1-M16	強度区分：4.8	BOLT1-M16	強度区分：4.8				



Y通り 鉄骨詳細図 S=1/20



X1通り 鉄骨詳細図 S=1/20